

北翔大学北方圏学術情報センター 年表（令和2年度（2020年度））

令和2年4月	<p>センター長に小室晴陽（教育文化学部教授）就任 副センター長に富田玲子（教育文化学部教授）就任 運営委員会 運営委員長 小室晴陽（センター長兼務） 副委員長 富田玲子（副センター長兼務） 運営委員 黒澤直子（生涯スポーツ学部教授）、林 亨（教育文化学部教授）、村松幹男（教育文化学部教授）、千里政文（教育文化学部教授）、飯田昭人（教育文化学部准教授）、菊地達夫（短期大学部こども学科教授）、石塚誠之（教育文化学部准教授）、岡元敦司（教育文化学部講師）水野信太郎（生涯スポーツ学部教授）湯澤直樹（短期大学部ライフデザイン学科准教授）佐藤仁（北方圏学術情報センター事務担当）</p>
令和2年4月～ 令和3年3月	<p>令和2年度（2020年度）北翔大学北方圏学術情報センター連続市民講座</p> <p>【講座1 第31回北海道思春期支援ネットワーク秋季セミナーおよび第22回日本いのちの教育学会】 オンライン開催 日時：10月10日（土）～10月11日（日） 10：00～16：30 会場：会議室A・会議室B・ギャラリーA・ミーティングルーム 概要：日本いのちの教育学会とのコラボレーションで、2日間の日程で実施した。コロナ化でオンラインと横浜会場のハイブリッドでメイン講演としてLGBTの人権問題と教育について宝塚大学の日高庸晴先生にご講演いただいた。初めてのオンラインの開催であったが、遠方の方々が参加しやすかったことが今後の参加につながる開催になった。</p> <p>【講座2 地域資源を活かした21世紀以降のまちづくり～いま再考される文化遺産～】 日時：12月6日（日） 13：00～16：40 会場：会議室A 概要：わが国が抱える少子高齢化という大きな課題への対策として、本市民講座は継続して幾つかの提案を試みてきた。その主旨は地域の人々が、自分たちの足元を理解し愛し矜持を持って住み続けるための視点である。本年は、その総括に位置する内容として江別市郷土資料館元館長である石垣秀人N43赤煉瓦塾事務局長による「えべつのれんが130年」、文化財建造物保存修理工事の専門家であり中部産業遺産研究会元事務局長の野口英一朗氏による「尾崎士郎ゆかりの建築物と愛知県－士郎の故郷の2棟－」そして当市民講座担当者である水野信太郎による「若山牧水の生家と南国・日向の国－北国との比較対象－」を発表した。残念であった点は札幌軟石に関する講演を依頼していた先生が、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大事を取って辞退なさったことである。しかし会場には本学短期大学部の菊地達夫教授、札幌建築鑑賞会代表の杉浦正人氏ほか講演担当者以外の方々も出席した。</p> <p>【講座3 第32回北海道思春期支援ネットワーク冬季セミナー 「子どもの経験を支える」】 オンライン開催 日時：2月13日（土）13：00～15：30 会場：601研究室 概要：「失敗学」という経験からの学びについて北海道教育大学藤川聡先生にご講演をいただいた。そのほか、養護教諭の実践から子どもの健康課題を解決する実践やこれからのがん教育についてをテーマにした。Covid-19の感染拡大状況から前回に続きオンラインでの開催であったが、卒業生の参加も多くコロナ化で会えない時間が続く中で同窓生とオンラインで会えたことも意義があった。</p>

令和2年4月～
令和3年3月

【講座4 北海道における産学官民連携による人材育成の可能性

～人をつなぐ！地域をつなぐ！道を拓く！「北海道ボールパーク構想について】オンライン開催

日時：2月27日（土） 9：00～16：00

会場：会議室A・B

概要：2023年度完成に向けて建設中の北海道ボールパーク★F/VILLAGEを中核とした近隣地域及び北海道としての機能関連検討が進められている。完成までの期間内での検討・提案事項も関係各所啓発となる機会を提供できたと確信している。既に当方への検討依頼等があり、各所ネットワークを活用して提案していく。

【講座5 北欧の教育と共生社会】オンライン開催

日時：3月6日（土） 9：00～16：00

会場：会議室A

概要：北欧の教育と共生社会というテーマで、東京大学特任研究員の中田 麗子氏、信州大学准教授の林 寛平氏、金沢大学准教授の本所 恵氏から、スウェーデンで実際に暮らし、子育てをした中で身を以て経験した北欧教育の素晴らしい面は元より、葛藤、困難や課題について共に考える講演会を実施した。スウェーデン教育現場の等身大の姿について話を聞くことで、日本の教育の将来のあり方について考える機会となった。

【講座6 美術グループ成果発表作品展・関連ワークショップ開催およびトークショー】開催

日時：3月7日（日）～3月30日（火） 9：00～21：00

会場：ギャラリーA・ギャラリーB・ミーティングルーム

概要：① 研究成果発表展「フィギュールの森」展 3/13～28 札幌円山キャンパスギャラリーA・B 昨年度末3月の予定していた展覧会と同内容。新たに加わった山下研究員の他、比較する表現領域を広げるため、グラフィックデザイン領域で活躍するイラストレーターの大西洋氏と、主に金属素材を使う造形作家の川上りえ氏に加わってもらい6名の作家による展覧会とした。目論見通り、これまでの大井・末次・林の各研究員の作品にはない世界観を示した。感染症対策もあり、ホームページ (<https://www.kintart.com>) を作成して、鑑賞やイベント参加をすべて事前予約制とし人数制限した。

② 鑑賞ワークショップ（プロジェクトAの連続市民講座として開催）3/27ギャラリーA・B研究成果発表展「フィギュールの森」展の開催中に合わせて実施。山崎研究員がファシリテーターになって、対話による鑑賞を実施。6人の作品を順番に見ながら参加者が感想や思いを語り合った。

③ トークセッション（プロジェクトAの連続市民講座として開催）3/27ギャラリーA・B研究成果発表展「フィギュールの森」展に合わせて実施。「美術と心理学の接点」というテーマの元、20名の参加者に限定して実施。

令和2年度（2020年度）北方圏学術情報センター グループ別研究員一覧

運営委員 ◎小室晴陽・○富田玲子・飯田昭人・石塚誠之・岡元敬司・菊地達夫・黒澤直子・千里政文・林亨・村松幹男・水野信太郎・湯澤直樹・佐藤仁 ※太字は新規参加者

No.	区分	研究グループ略称	研究員所属				計	
			大 学	短期大学部	学 外 研 究 員	研 究 協 力 員		
1	継続	プロジェクトA 多様な人々が共創して地域づくりを行うための異分野連携	小室 晴陽 林 亨 村松 幹男 山崎 正明 富田 玲子 丸岡 里香 大信田静子 飯田 昭人 石塚 誠之 山下 圭介 水野信太郎 岡元 敦司	平井 伸之 菊地 達夫 田口 智子 湯澤 直樹			16	402
2	継続	舞台芸術	◎村松 幹男 森井 綾	田 光子 平井 伸之	大林のり子 金田一仁志 野田頭 希 森 一生		8	401 手前
3	継続	美術	◎林 亨 小室 晴陽 山崎 正明 山下 圭介		末次 弘明 手塚 昌広 大井 敏恭 佐藤 一明 塚崎 美歩 岩崎 愛彦 館内 徹		11	401 中
4	継続	プロジェクトB 健康	◎飯田 昭人 畑江 郁子 沖田 孝一 澤 聡一 丸岡 里香 西村 貴之 佐藤 朱美 入江 智也 高田 真吾		森田 憲輝 山瀬 甲人 伊織 光恵	川崎 直樹 斉藤 美香 野口 直美 水野 君平	15	601
5	継続	生活環境	◎千里 政文 富田 玲子 大信田静子 浅井 貴也 横山 光		斎藤 徹 山瀬 甲人 高岡 朋子 永野 晴基 田 恩 薊 佐藤 克之 佐藤 剛 永野 光一 村中 敬維 松浦 秀則 後藤 英樹 押谷 一 山田もと子 青山 重美 石切山祥子 牧野 准子 小河 佳子		22	401奥 + 403 (ユニバーサルデザイン)
6	継続	福祉	◎黒澤 直子 梶 晴美 佐々木浩子 本間 美幸 尾形 良子 八巻 貴穂 吉田 修大 神部 雅子 岩本 希 古市 孝義				10	601
7	新規	歴史	◎水野信太郎	菊地 達夫	神谷 忠孝 竹内 修一		4	
小 計			43	7	32	4	86	
1		生活福祉研究部	佐々木浩子 入江 智也 梶 晴美 風間 雅江 佐藤 至英 前田 織枝 林 亨 寺田 香 大宮司 信	菊地 達夫 松田 久美	木下 泰男 加藤 満 岡野 五郎 齊藤 徹 澤野 尚子		16	601
2		生涯学習研究部	小室 晴陽 小杉 直美 鈴木しおり 石塚 誠之 竹田 唯史 横山 光 山谷敬三郎 工藤ゆかり 林 亨 三浦 公裕 佐々木浩子 二宮 孝行 水野信太郎 杉浦 勉 山本 敬三 前田 織枝 澤田 悦子 伏見千悦子 松澤 衛 西出 勉	菊地 達夫 田口 智子 松田 久美 中島 啓子 湯澤 直樹	藤原 等 佐藤 満雄 萬崎由美子 亀山 比佐 村井 俊博 能勢 保幸 白川 和希 谷川 松芳 遠藤知恵子 関本 勝幸 那賀島彰一 増子 智也 佐藤 貴虎 今井 敏勝 藤川 和信 唐牛 拓郎 神田 英治 佐々木邦子 那須 杏奈 菅原 克弘 島津 彰		46	602
小 計			29	7	26		62	
合 計			72	14	58	4	148	